
痴話喧嘩...？(明×たまき(ヒロイン)、チャーリー×由美)

虎華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

痴話喧嘩…？（明×たまき（ヒロイン）、チャーリー×由美）

【Nコード】

N1501B

【作者名】

虎華

【あらすじ】

真・女神転生if…のアキラ×ヒロインSSです。個人設定で、ヒロインの名前は環たまきにしています。子ネタ。

今日は由美とチャーリーの間ゆづしに生まれた息子、由二を見るために宮本夫妻が黒井家に来てます。男二人は居間で何やら話してますが、一方奥様たち二人組みはとうと・・・

「あら？由二くん寝ちゃったの？」

と、たまきは由二が寝付いたのを見て残念そうに言う。

「そう、今ようやく眠ったところなの。」

息子を優しく見つめる由美が返す。

「寝顔もかわいい〜」

と、たまきはすっかり有頂天である。

たまきが帰る予定の時間を過ぎても未だ戻ろうとはしないのはこのチャーリーと由美の息子、由二に夢中だったからである。

明と結婚してずいぶん経つにもかかわらず、たまきは未だ子供に恵まれない。

その事もあつて高校時代からの親友である由美に子供ができたとなると

まるで自分の事のように喜んだ。

「朝から大変だよ、寝ているときは可愛いけど。」

「あは、由美ったらすっかりお母さんらしくなっちゃって。」

「まあね〜」

どこか誇らし気な由美を見て、たまきの表情が少し曇る。

由美はそれにすぐ気がついた。

「ちよつとどうしたの？」

「あつ・・・何でもないよっ」

慌てて否定するが、もともとたまきは隠し事が得意な方ではない。

「怪しいわね。宮本に意地悪でもされた？」

わざとふざけたように聞いてみる

「ちがうよ！！！」

ものすごい否定の言葉が返ってきた。

「ごめんごめん。」

「もー明はそんな事しないんだからっ」

少し拗ねたように言う。そしてぽつんと

「いいよね由美は。あんな可愛い赤ちゃんがいてさ。私も欲しいな。」

「・・・とつぶやいた。」

「はあ！？」

「はあ！？」

これには由美のほうに驚いた。

「何？だって当然でしょ？私達結婚してずいぶん経つのに・・・」

寂しそうに言う。何となくわかっていたが、やはりそのことだった

のか。

「じゃあ、それこそ早く帰って子作りに励めば？」

「あんまりそんなことを言わないでよ！」

顔が真っ赤になっている。いくら結婚していてもそのテの話題は苦

手らしい。

「それに必ず子供が出来るとはかぎらないし。」

寂しそうなたまきの表情を見ながら由美はある考えにたどり着い

た。

その考えをたまきに言おうかと思っただが宮本はいい顔しないだ

ろう。

（・・・ってか私が言ったってバレたら殺されるかも（笑））

どうしようか試行錯誤を重ねていたが、

落ち込んでいる友人を放って置けるはずもなく・・・

「バカねっ相手はあの宮本でしょ？あんたの気持ちなんかとっくにお見通しよ。」

多分計算してるんだと思うわ。」

「計算？」

「子供にあんたを取られたくないんだと思うわ。理由は他にもあるかもしれないけど、

赤ちゃんが出来ないように計算してるのは確かだと思う。」

「そうなのかな・・・？」

あの明がそんな事を考えているとは思えないのだけど。

しかし今までのことを思い出してみると心当たりがあるような無いような・・・

「とりあえず、宮本にあんたの気持ちをちゃんと言った方がいいと思うよ。」

言っていないでしょ？」

「うん」

「ほらね〜。」

その時だった。

ガンツ！！！！

と言う音と共に居間でチャーリーと話していたはずの明が部屋に入ってきた。

ドアを開くときに近くにあったゴミ箱にぶつけてしまったらしい。

幸いゴミはほんの少ししか入ってなかったのだが、たまきと由美はその音に驚いた。

「明！？どうしたの？何かあった？」

「おいおい内田、そりゃねえだろ。宮本はお前を呼びに来たんだぜ？」

たまきの疑問に答えたのはチャーリー。

明が開け放ったドアから続いてゆっくりと入ってくる。

たまきの口調にどこか呆れたような表情をしながら。

「じっごめん明！！！！」

ないと思われる。

そしてさらに追い打ちが。

「それが自然なことならかまわないよ？」

でも計算までするの？ 私が子供だけに夢中になるから？」

「！！！」

返答に窮しているとたまきが笑って言う。

「当たった？」

「……………」

何も言わないのは肯定の証。

「ねえ明、そんな事は絶対無いよ。それに明とじゃないと駄目なの。

分かって？」

祈るように自分を見上げてくる。

その目を見た瞬間、明は自分の負けだな、と心の中で苦笑した。

しかし不愉快ではなかった。

「…………俺だって全く欲しくないと言う訳じゃない。」

「私は早く欲しいの。明に似てる男の子か女の子。」

「…………なんで女の子なんだ？」

「え？だって女の子は父親に似ると幸せになるって言うじゃない。」

「そうなのか…………？」

そして。

いつの間にか二人の世界に入ってしまった二人のやりとりを、少し離れて見つめるチャーリーと由美がいた。

「なんか、話題がずれてるのは気のせい…………？」

「多分、気のせいじゃねえな…………。」

今までの会話から大体の事情をつかんだらしいチャーリーも苦笑する。

そして由美に抱き上げられている由二を抱き上げた。

「あんな痴話喧嘩を見せ付けられちゃたまんねえぜ。なあ由二」

…………と、由二をあやす。そしてふと気づいたように由美を見る。

「なあ由美、あの二人の子供が女の子だったら由二とくつつかねえかな？」

と、おどけて言うじぶんの夫に

「気の長い話ねえ・・・」

と、微笑を浮かべた由美が軽くため息をついた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1501b/>

痴話喧嘩...?(明×たまき(ヒロイン)、チャーリー×由美)

2010年12月30日02時16分発行